

## 卒業して5年の今、思うこと

公益財団法人 西熊谷病院 新井 恒利

何時か勉強し直したいという思いを抱えながら、長年働き続けていた私にとって、看専での日々は、嬉しさと喜びに満ち溢れる時間であった。各専門講師の丁寧で解りやすい講義が貴重で、限られた時間で如何に多くの知識を吸収し、看護実践に繋げていけるかを考え受講していた。その姿勢はよし、集中は長く続かず、閉眼しながらの受講も少なからずあり、勿体ないことをしたと悔やまれる。なにより級友たちに恵まれ、准看護師資格を取得しての新しい業務や家庭環境の変化、役割が増えることでの忙しさや息苦しさを笑いに換え話し合ったり、何かと相談したり、マニアックな趣味やばかな話で終始したり、そんな時間に何時も救われていた。私よりも頑張っているひとが居ることに励まされる3年間だった。彼らの中にいて、私自身が誰かを勇気づけることができる一員であるなら、誇らしいと思えるクラスであった。勿論、時に無軌道となるクラスを支えてくれた担任や見守ってくれた教諭にも恵まれていたことと感謝も忘れていない。回顧すると、私の看護としての核は、看専にあったといっても過言ではない。

看専を卒業して5年、西熊谷病院に従事し、充実した日々を送っている。当院は、地域に支持され創立100年を迎える歴史があり、最先端医療に取り組んでいる埼玉県北部精神科医療を担う精神科病院である。看護課では未来を創る職員への教育に力を注ぎ、私自身も研修に勤しみ、一般科の病院と遜色ないくらいの知識や技術を享受し、加えて精神保健福祉法を遵守する精神科看護師と在るべく、常に自己研鑽や同期と共に切磋琢磨している。現在は、院内の教育研修担当として後輩指導に努める役割を担っている。当院のPR染みた話となったが、正にその通り、『西熊谷病院をPRする会議』の一員としての役割もあり遂行させてもらった次第。精神科は、私のこれまでの生活や仕事、習い事、趣味など培ってきたすべてが看護実践で活かされ、セカンドキャリアとして十分に活躍できる科目であると実感している。当院や精神科の素晴らしさ知ってもらう過程で、就業希望者が増えることを願い活動している。病棟業務の傍ら、多くの役割を担うことは大変で挫けそうに思うこともある。そんな時、きっと彼らもそれぞれの職場で頑張っている、懸命に闘っていると想像すると、自然と勇気が湧き、立ち止まっていられなくなる。今の私を支えるのは、彼らたちとの大切な時間であり、負けないように誇らしく在りたい思いなのだろう。これから、看専を志す方や在籍する後輩たちそれぞれが、価値ある時間を過ごしてもらえれば幸いである。